

在宅医療への取組 ～菊池郡市在宅ドクターネットについて～

高齢化社会が進んでいく中で厚労省は、要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される仕組みが必要と考え「地域包括ケアシステム」を2003年から推進しています。

この地域包括ケアシステムにおいて医療の役割は、高齢者の「外来」「入院」「入所」「在宅」それぞれの状況で介護や福祉を含めて医療的なサポートを行う事であり、喫緊の課題として団塊の世代の方々が全て後期高齢者となられる2025年問題があります。



この問題（確実に在宅医療を希望される方が増加する）に対して、菊池郡市医師会としては『菊池郡市在宅ドクターネット（以下、Dr. ネット）』と『菊池郡市ドクターネットサテライト事務局』を立ち上げて取り組んで参りました。

Dr. ネットは365日24時間拘束されるというイメージが強い訪問診療（在宅医療）において、一人医師（主に個人診療所）の業務負担軽減を目的として2015年にスタートした連携・情報共有ネットワークです。このDr. ネットに登録されている医師には



連携医と協力医の2種類があり、連携医は外来通院で診療されていた今までの担当医に代わって在宅医療を行ってくれる医師で、協力医は主治医にはならないが専門性の高い領域で必要に応じて診療のアドバイスやサポートを担ってくれる医師のことです。



少し本題から逸れますが、菊池郡市医師会の地域分けについて説明します。菊池郡市2市2町を東部・西部・北部の3地域に分けており、東部は大津町と菊陽町、西部は合志市、北部は菊池市になっています。それぞれの地域でのDr. ネットの内訳は、2023年3月末で連携医25名（東部8、西部4、北部13）、協力医24名（東部9、西部5、北部10）となっています。

そして連携医の要請により優先的に緊急入院やレスパイト入院を受け入れてくれる病院として支援病院があり、菊池圏域内には14病院（東部6、西部4、北部4）が後方支援をして下さっています。

次に『菊池郡市ドクターネットサテライト事務局』についてお話しします。先ほど説明した東部・北部・西部の3地域にそれぞれ事務局を設けています。

外来通院が不可能になった方が施設入所ではなく在宅医療を希望されているが、担当医師が行っていない場合にそれぞれの地域で Dr. ネットを利用して在宅主治医を代わりに探してくれるほか、熊本大学病院や菊池郡市医師会立病院等で退院が決定した時、在宅を希望される方がスムーズに訪問診療の受け入れが出来るよう地域連携の窓口としての役割も担っています。

しかしながらこの取り組みが有効に機能しているとは、まだまだ言い難く課題は山積しているのが実情です。

先日久し振りに連携医・協力医そして事務局の方々に集まって頂き、菊池圏域のこれからの在宅医療の在り方や Dr. ネットとサテライト機能の問題点を話し合いました。

今後も多職種も方々との更なる連携を図り、この圏域の方々がより良い在宅医療を安心して受けられるように努めて参ります。

菊池市 岩根クリニック 岩根 英治

次回は熊本県ホームヘルパー協議会 田尻様にリレーします。

